のものが得られなかったし，中国大陸の材料も得られなかったので，これらの資料も入れて再検討する必要がある。上記の 2 系統のものが別個に中国大陸にある可能性もある。シイ類の分類は従来の扱いと異なる結論となったので学名の整理を行った。

この研究は真柴が故鈴木時夫先生，大分県教育委員会の推薦によって，1973年東京大学理学部に留学して山崎の指導のもとに行ったものである。研究の機会をあたえていただいた恩師故鈴木先生，県教育委員会ならびに標本の利用をさせて下さった東京大学，京都大学，国立科学博物館，九州大学の方々，標本の一部を調べて下さった台湾大学の廖日京教授，またコジイとオキナワジイの葉の生品を採集して下さった水野瑞夫，酒井聡樹氏などの方々に心から感謝いたします。この論文は鈴木先生との間で属の見解に違いがあったので発表を控えていたけれど，大分年月もたつので新しい資料を加えて発表することにした。

(つづく)

□小林義雄：**北極より南極まで—世界の山々と島々の紀行** 160pp. 1987. サンコー印刷出版部，東京. ￥6,800. 自らを漂泊の旅人と呼ぶ菌類学者の著者は，世界中ことに高緯度地方・高山・熱帯密林などの，調査の目の届かなかった方面へ出かけて行って，菌類の採集・研究を行なっている。この本の「小林が50年間に調査した地域」という世界地図を見ると，熱帯から寒帯まで足跡を示す丸印が満遍なく散らばっているのに驚く。皮切りは昭和 6 年に小さいトロール船に便乗してカムチャツカからアリューシャン列島を 5 ヶ月間調査した旅行で，戦前にはミクロネシアや南サハリン，戦中は長白山など満州各地へ赴いた。戦後は38年から現在までほとんど毎年どこかへ出かけている。その中で特に目立った行先を拾うと，北極圏方面ではアラスカ・グリーンランド・アイスランド・スピッツベルゲンなど，南極のアメリカ基地付近，アフリカの赤道直下の秘境ルウェンゾリ山塊 (5,080 m)，メキシコのポポカテペトル山 (5,452 m)，オセアニアの島々・ニューギニアなど。この本はそれらの旅行記を集めたもので，場所により克明にあるいは簡明に述べてあり，植物・動物・風景・民俗・食物など土地土地によってさまざまの内容の物事が出てくるので，まことに興味津々の読み物である。その上 150 余枚の写真（著者撮影）がきれいに印刷されて楽しい紙面を作っている。（伊藤　洋）

□林弥栄・畦上能力・菱山忠三郎・西田尚道：**夏の山野草と樹木 550 種**　253 pp. 1987. 講談社，東京. ￥2,200. 前に紹介した春の巻に続くマイフルール・シリーズの一巻で，前巻同様カラー写真満載，類似種比較と検索図解は初心者にもわかりやすい。高山植物の特集がある。（伊藤　洋）